

河北新報

2月28日(金)

河北新報社

海岸林復活へ一歩

名取市沿岸部で行われている「海岸林再生プロジェクト」の第1回定期活動報告会が22日、同市文化会館で開かれた。東日本大震災で失われた海岸林の復活に向けて、今春から毎年10万本規模でクロマツなどの苗木を植樹していく計画が示された。

名取「再生プロジェクト」計画発表

公益財団法人「オイスカ」(東京)と、地元農家でつくる「名取市海岸林再生の会」の主催。両者



住民や専門家が協力して海岸林を再生していく方針が説明された報告会

春から苗木10万本植樹

は協力して10年間でクロマツを中心とする苗木を50万本(100畝分)以上育て、海岸に植えるプロジェクトを進めている。

この日はこれまでの経緯と育苗の成果などの紹介があった。13日には市内の県有林と市有林計約90畝の植林について、県・市と協定を締結したことが報告された。

基調講演した太田猛彦東大名誉教授は、飛砂や強風などを防ぐ海岸林の多くが17世紀以降に植えられた人工林であることなどを説明し、「地元住民らが苗木を育てるところから再生を目指す試みは素晴らしい」とプロジェクトを評価した。

28日には市内の国有林2・9畝の植林について国と協定を結ぶ予定。オイスカ啓発普及部の吉田俊通課長は「海岸林を育てるのは非常に難しい作業。50〜100年後の将来を考え、長い目で取り組んでいく」と語った。